

日本心理学会若手の会

JPA Early Career Psychologist Network



Vol.8 No.1 2024

**NEWS
LETTER****CONTENTS**

- ・新幹事の自己紹介
- ・日本心理学会若手の会 企画報告
- ・大会参加支援 受賞者の方々
- ・編集後記

新幹事の自己紹介

川上 澄香
(かわかみ さやか)
(浜松医科大学
子どものこころの
発達研究センター、
特任助教)

新しく、日本心理学会若手の会の幹事になりました、川上澄香です。現在は、浜松医科大学で、自閉スペクトラム症をもつ方の学習や記憶上の特徴と二次障害の起こりやすさとの関連について研究を行っています。

先の第 87 回大会では、早速若手の会進路相談のブースの相談員を担当させていただきましたが、相談相手としてお話させていただいた時間は、私にとってもとても良い時間になりました。私よりもっと若い後輩たちの悩み事を聞いている中で、自分を振り返ったり、生活や人生設計のことについて忘れていた、純粋な知ることや探索することの楽しさをちょっと思い出せました。また、同世代や少し先輩の考え方にも触れられて、ああそんな考え方もしかにあるなあと、狭まっ

ていた視野が広がった気がします。

研究のことも、進路や就活のことも、人生設計のことも、各々悩むことが色々あると思いますが、これから在任の間に、少しでも若手の皆様のお役に立てるよう、頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日本心理学会若手の会 企画報告**<若手の会企画シンポジウム>**

「音楽・ダンスから心を探る with 竹中雄大 (Novelbright)& 三代目 JSB バックダンサー中野拓哉」

本シンポジウムでは、メジャーロックバンド Novelbright の Vo. 竹中雄大氏や三代目 JSB の元バックダンサーの中野拓哉氏というプロアーティストをお呼びし、心理学の 1 つの主要なテーマである「音楽・ダンスからいかにヒトの心が進化してきたか」を議論しました。そして、現場で活躍するプロならではの音楽・ダンスへの視点から、本研究領域の今後の課題なども浮き彫りとすることができました。

また、本シンポジウムは一般の方への心理学普及も 1 つの目的としており、YouTube での同時配



写真：若手の会企画シンポジウム（提供：富田健太さん）

信を実施し、最大同時接続数は 1600 人以上そして会場も含めて 3000 人ほどの方々に本シンポジウムを聴講していただきました。また、参加者アンケートでは「日本心理学会を本シンポジウムを通じて、初めて知った」や「音楽・ダンスが心理学として研究できることを初めて知った」という声もいただっており、ポップ心理学が普及する昨今において、科学的な心理学を普及する良い場となりました。

（富田健太・井上和哉・讃井知・町田規憲）

<若手のための進路相談会>

今大会で 6 回目の開催となる「若手のための進路相談会」では、特に研究者としてのキャリアパスを考える方を対象とした企画として、博士課程における悩みの共有や、学位取得にむけた TIPS の紹介を、パネルディスカッション形式で行いました。

登壇者からは、「博士後期課程に進学する上でやっておいた方がいいこと」「生活の中で研究活動を

続けるうえでのメンタリティ」「ライフイベント（介護・結婚・育児）と研究生活」「研究作業が進まない場合の解決策と健康面のマネジメント」「博士課程後の就職について」といった多様なトピックについてお話しいただきました。ディスカッションの中では会場の皆さんにグループワークに取り組んでいただくなど、アクティブに交流する場面も見られました。

なお、本企画は公開企画として実施し、高校生にもご参加いただきました。次回以降も、心理学を学びたいと思う若手の後押しとなるような企画にしていきたいと思います。

（讃井知・富田健太）

<学部生・高校生プレゼンバトル開催報告>

第 87 回大会もハイブリッド開催となり、対面発表も増えてきましたが、「学部生・高校生プレゼンバトル」はオンデマンド方式で実施されました。今年度も盛況で、30 演題（学部生 27 演題・高校生 3 演題）の発表動画が公開されました。た

だ、前年度と比較すると、高校生による発表が減っており、情報拡散や発表の敷居について課題として残りました。今後はX（旧 Twitter）などのSNSを通じて、高校生に効果的に訴求する方法や、気軽に発表ができるような枠組み作りを考えていきます。

今回の発表では、数理モデルを使用した研究提案が、例年よりも多く発表の中で見られました。学部生への統計教育の発展や、心理学における一つのムーブメントを受けてのものと思われます。しかし、このような数理モデルを用いていないからといって、発表を妨げるものではなく、評価がされないということもありません。自分たちが「面白い」と思った・感じた心理学の研究や構想を、自由に、楽しんで発表をして貰えればと思います。今後も、「プレゼンバトル」を代表として、若手が自由闊達に発表ができる機会と場を提供できるよう努力をして参りますので、どうぞよろしくお願いします。（工藤大介・前澤知輝）

大会参加支援 受賞者の方々

広島大学大学院 博士課程前期1年

今田 奈緒さん

この度は、日本心理学会第87回大会の参加費支援事業に採用していただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

本大会では、過剰適応概念の再考を目的に、第三者から見た過剰適応者の様相、また、両親に対する過剰適応と抑うつ・主観的幸福感との関連についてポスター発表をさせていただきました。私にとって本大会が大学院入学後初めてのポスター発表の機会であったため大変緊張しておりましたが、沢山の方と交流し、自身の研究について意見交換を行うことができ、大変励みになりました。意見交換をさせていただいたりフィードバックを頂いたりする中で、自身の研究について振り返り、

新たな視点から改めて考えることができました。また、発表を通じて同じテーマについて研究している大学院生の方と交流できましたことも嬉しく思っております。

今後は本大会で得た学びを基に、過剰適応者の様相や特徴を明らかにすることで、心理学研究と実践の両方に貢献出来ますよう尽力していきたいと思っております。改めて、この度は誠にありがとうございました。

早稲田大学大学院 人間科学研究科 修士課程2年 小日向 咲来さん

この度は、日本心理学会第87回大会における参加費のご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。今回の大会に参加させていただく中では、対面開催の活気が戻ってきたことを感じながら、自身の発表に留まらずさまざまな演題を拝聴させていただくことができました。このような貴重な機会を頂戴することができたことにつきまして、改めて感謝申し上げます。

本大会のポスター発表では、「ASD 特性に起因する聴覚過敏の症例の概観と分類」というタイトルのもと、ASDを抱える方の聴覚過敏が改善した事例を文献研究という形でまとめて発表させていただきました。発表を見に来てくださった方々の中には、研究者の方のみならず、臨床現場で活動されている方も多くいらっしゃったことが心に残っています。皆様からは、「この結果から、私の働いている現場にはどんなことが活かされますか？」というご質問をたくさんいただき、研究と臨床のつながりについて改めて深く考えさせられる場となりました。

今回の経験を踏まえて、臨床に還元できるような研究をこれからも続けていきたいと思います。改めて、この度は誠にありがとうございました。

筑波大学心理学学位プログラム博士前期課程2年 志澤 翔太郎さん

この度は第 87 回日本心理学会大会参加費支援事業に採用していただき、誠にありがとうございました。

私は今大会で、対人認知における道德性の重要性について、「親切的な」など人物に付加された形容表現の因子分析を用いて検討を行った研究を発表いたしました。従来の温かさ・能力から成る 2 次元モデルと道德性・社交性・有能性から成る 3 次元モデルの比較に向けた探索的な研究に対し、発表を聴いてくださった多くの方々から建設的なご意見を頂けましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

また、今大会のポスター発表セッション中に私の投稿論文をお読みいただいた方からご質問を頂きました。自身の執筆した論文が他の研究者の方に届くという大変喜ばしい経験をさせていただき、改めて心理学を研究し、得られた知見を発信することの素晴らしさを噛みしめております。

日本心理学会大会ほどの規模の大会で自身の研究を発表するのは初めての経験であり、研究意欲をかき立てられる様々な刺激を頂くことができました。今大会で得た貴重な経験を糧に、今後とも研究に注力し、心理学の発展に寄与できるよう精進いたします。

早稲田大学文学研究科 修士 1 年

富井 繭さん

第 87 回大会の参加費のご支援をいただきましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

私は現在「孤独感」に関する研究を行っています。わが国では少子高齢化が急速に進む中で、単身世帯や単身高齢世帯の増加が見込まれ、孤独感の深刻化を引き起こす可能性があります。また、孤独感 は心身の健康にネガティブな影響を与え、疾病・死亡リスクを高めることが分かっています。このように日本において孤独感 は深刻な社会問題をもたらす可能性があると考えられます。

これらを背景に、私は、孤独感の予測因子を検

討することが必要であると考え、ダークパーソナリティや自己意識との関連について研究を進めています。しかし、海外と比較して日本においては孤独感についての研究は少ないのが現状です。一方で、本大会では同じように孤独感に関するポスター発表などをされている方を拝見しました。孤独感というテーマが日本において注目され始めていることを肌で感じ取ることができ、非常に良い刺激になりました。

今後は孤独感の対処方略を検討するなど、さらに研究を深く発展させ、心理学会および社会に研究を還元できるよう精進いたします。

放送大学大学院 修士課程修了生

中井 一宏さん

この度は、大会参加費をご支援くださりありがとうございました。

メメント・モリで知られているように、死の想起は人の思考や行動に影響を与えます。それを踏み込んで、「存在論的恐怖は人生の意味にどれくらい、どのような影響を及ぼすのか？」を実験的・定量的に調査し、その結果を執筆して 3 月末に修了しました。

とはいえ、再現性や一般化可能性が議論されている中、抽象度の高いこのテーマを扱うにはまだまだ力不足で、心残りもありました。

そこで、「修士論文の一部を発表し、様々な人に意見をもらって洗練しよう」という大層な理由を掲げて参加申し込みしましたが、内心では実力不足を思い知るのが不安で、申し込み直後からあれこれ言い訳を考えて逃亡準備を始めていました。しかし、本制度に採用されたことが後押しとなって、妥協せずに取り組んでみようという気持ちになり、そのまま当日を迎えることができました。人生初のポスター発表でしたが、当日は多くの方と議論したり、大会後も情報交換をしたりと、実りある機会となりました。この貴重な経験を思い出で終わらせないように精進します。改めてあり

がございました。

甲南大学大学院 博士後期課程1年

堀 孝司さん

この度は、日本心理学会第87回大会の参加費をご支援いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私は、「いじめられる側にも責任がある」といういじめ被害者への有責性意識にまつわる研究を行っています。この意識は、子どもから大人まで幅広く浸透していることが知られており、いじめ解決のためには、こうした意識の変容が不可欠であると考えています。

本大会の発表では、こうした意識を変容させるために、いじめ被害者への共感性に着目した研究を発表させていただきました。さまざまな先生方から、大変貴重なご意見をいただけたことはもちろんのこと、なかには、これまで別の学会で発表した一連の研究内容をご存じの先生もいらっしゃったことが、大変印象に残っております。これまで積み上げてきた発表の一つ一つが、さまざまな先生方にも届いていたことを実感できました。このような非常に有意義な体験をさせていただけたこと、大変幸甚に存じます。

これからも研究を積み重ねていくことで、いじめ問題解決に少しでも貢献することができればと考えております。改めまして、この度は誠にありがとうございました。

日本体育大学大学院博士前期課程2年

体育学研究科体育学専攻

松原 旭飛さん

この度は、日本心理学会第87回大会の参加費をご支援いただき、誠にありがとうございました。私は、スポーツ心理学を専門にしながら研究を進めており、その中でもスポーツチームにおける心理的安全性について検討しています。今回の学会発表においては、大学生の女性アスリートが認知

する心理的危害および危険性に関して質的に検討した結果を発表しました。発表を通してたくさんの方々とディスカッションをさせていただく中で新たな視座を得ることができ、有意義な時間となりました。

そして、スポーツ心理学の親学問である“心理学”を学ぶことの大切さを肌で感じることができました。具体的には、心理学に関する基本的な知識や統計手法、“こころ”を測るとはどういうことか？といったような問いについて考えを深めることができました。今後は、日本心理学会大会に参加して得た学びを活かしながら研究活動を進めるとともに、科学的根拠に基づいた知見をスポーツ現場に還元できるように精進して参ります。

編集後記

今年度の学会は対面へと大きくシフトし、国際シンポジウムの開催や、会員交流会も催されました。オンラインよりも何気ない会話がしやすかった方や、発表や交流会等でより人脈が広がった方もいらっしゃったかもしれません。

今年度、若手の会は、新たに1名の方が幹事に加わりました。今後も日本心理学会の若手の皆様と一緒に、イベントやシンポジウムを盛り上げていきますと幸いです。

次は、第8回異分野間協働懇話会も企画していく予定です。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

(井上和哉・佐藤稔子・富田健太)

発行：若手の会幹事会

〒113-0033 東京都文京区本郷

5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局

ips-ecp@psych.or.jp

2024年1月8日発行

編集：若手の会幹事会